

1.	リスクアセスメント（中央労働災害防止協会方式）について・・・・・・・・	3
2.	災害事例シート	
①	【製造業】 『型別』	
	転落災害（窯業土石製品製造業）・・・・・・・・	4
	転倒災害（繊維工業）・・・・・・・・	5
	飛来災害（一般機械器具製造業）・・・・・・・・	6
	巻き込まれ災害（一般機械器具製造業）・・・・・・・・	7
	切れ災害（家具・装備品製造業）・・・・・・・・	8
	無理な動作（金属製品製造業）・・・・・・・・	9
	『起因物別』	
	金属加工用機械（機械修理業）・・・・・・・・	10
	材料（金属加工業）・・・・・・・・	11
	作業床（食料品製造業）・・・・・・・・	12
	食品加工機械（食料品製造業）・・・・・・・・	13
②	【建設業】	
	巻き込まれ災害（舗装工事業）・・・・・・・・	14
	落下災害（家屋建築工事業）・・・・・・・・	15
	墜落災害（電気工事業）・・・・・・・・	16
	転落災害（家屋建築工事業）・・・・・・・・	17
	墜落災害（建築物解体工事業）・・・・・・・・	18
	切れ災害（家屋建築工事業）・・・・・・・・	19
	激突され災害（土木工事業）・・・・・・・・	20
	墜落災害（機械据付工事業）・・・・・・・・	21
	転落災害（家屋建築工事業）・・・・・・・・	22
	はさまれ災害（建築物解体工事業）・・・・・・・・	23
③	【運輸交通業】	
	墜落災害（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	24
	転倒災害（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	25
	はさまれ災害（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	26
	激突災害（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	27
	交通事故（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	28
	無理な動作（一般貨物自動車運送業）・・・・・・・・	29

④ 【農林業】

切れ災害（林業）	30
転落災害（農業）	31
激突され災害（林業）	32
激突され災害（林業）	33
転落災害（木材伐出業）	34
転落災害（農業）	35

⑤ 【サービス業】

転倒災害（新聞販売業）	36
転落災害（小売業）	37
巻き込まれ災害（卸売業）	38
転倒災害（旅館業）	39
墜落災害（清掃・と畜業）	40
はさまれ災害（警備業）	41
転倒災害（卸売業）	42
はさまれ災害（卸売業）	43
転倒災害（旅館業）	44
崩壊災害（教育研究業）	45

⑥ 【業務上疾病】

塩素ガス中毒（病院）	46
騒音による難聴（建設業）	47
有害物による薬傷（パルプ紙製造業）	48
重量物取扱による腰痛症（食料品製造業）	49
薬剤による角膜潰瘍（クリーニング業）	50
ノロウイルスによる感染症（介護施設）	51

リスクアセスメントについて（中央労働災害防止協会方式）

1. 重大性（災害の程度）

致命傷	10	死亡、失明、手足の切断等の重篤災害
重傷	6	骨折等長期療養が必要な休業災害及び障害が残るケガ
軽傷	3	上記以外の休業災害（医師による措置が必要なケガ）
軽微	1	表面的な障害、軽い切り傷及び打撲症（赤チン災害）

2. 発生の可能性（発生の確率）

確実である	6	かなりの注意力を高めていても災害になる
可能性が高い	4	通常の注意力では災害につながる
可能性がある	2	うっかりしていると災害になる
ほとんどない	1	通常の状態では災害にならない

3. 危険性又は有害性に近づく頻度

頻繁	4	毎日、頻繁に立ち入ったり接近したりする
時々	2	故障、修理・調整等で時々立ち入る
ほとんどない	1	立ち入り、接近することはめったにない

4. 対策の優先度の設定（リスクレベルの評価）

評価点数＝重大性＋可能性＋頻度

リスクレベルの評価（リスクレベルが高いほど優先度が大）

リスクレベル	評価点数	評価内容	取扱基準
IV	12～20	直ちに解決すべき問題がある (受け入れ不可能なリスク)	直ちに中止または改善する
III	9～11	重大な問題がある (低減対策を要するリスク)	優先的に改善する
II	6～8	多少問題がある (低減対策を要するリスク)	計画的に改善する
I	5以下	許容可能なリスク (ただちに低減対策を要しないリスク)	残っているリスクに応じて教育や人材配置をする

(例) 重大性「重傷」、可能性「可能性がある」、頻度「時々」

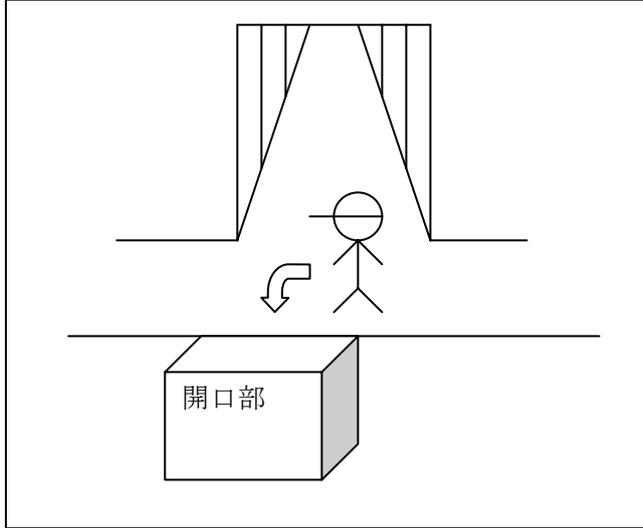
評価点数＝6＋2＋2＝10　リスクレベルⅢ　優先的に改善する

※ 以下、災害事例シートの下部にリスクアセスメント（例）を示す。

災害事例シート

業種	窯業土石製品製造業		
災害の種類	転落		
年齢	30代	職種	製造工
傷病名	左腕骨折	休業見込み	2週間

図



労働災害発生状況

採掘場において、坑内を通行中、突然漏電ブレーカーが作動し真っ暗になった。暗闇で方向が判らず誤って掘削済みの穴（深さ約2m）へ転落した。

原因

1. 掘削済みの開口部に転落防止措置がなかったこと。
2. 真っ暗になったにもかかわらず、懐中電灯を携行していなかったこと。

対策

1. 開口部への転落防止のために、囲いを設けること。
2. 坑内を通行する場合は、急な停電等に備え懐中電灯を携行すること。

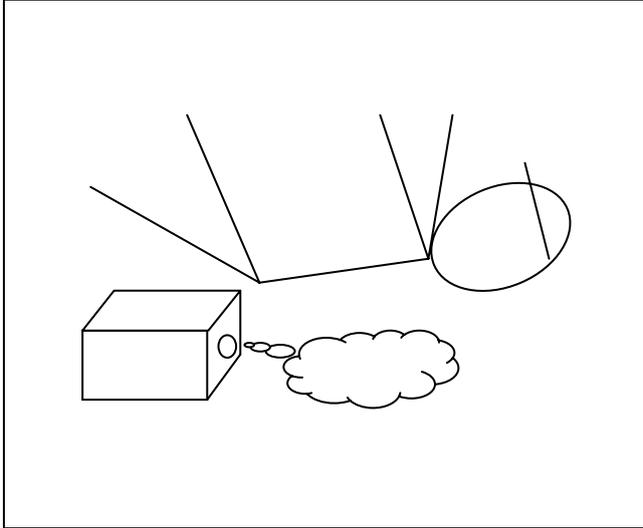
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	1	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	繊維工業		
災害の種類	転倒		
年齢	50代	職種	生産技能職
傷病名	胸椎圧迫骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内において、フォークリフトで運搬中のパレットがマシンオイル缶にぶつかり、床面にオイルがこぼれ汚染していた所へ通行した作業者が足を滑らせ転倒した。

原因

1. フォークリフトの移動箇所にオイル缶が置いてあったこと。
2. 通路にオイルがこぼれたまま放置していたので、床面が滑りやすい状態になっていたこと。
3. オイルで汚染された箇所を作業者が通行したこと。

対策

1. フォークリフトの運行経路を区画表示し、オイル缶等を置かないこと。
2. 通路にオイルがこぼれたときは直ぐに清掃すること。
3. オイルがこぼれた箇所はバリケードをする等により通行できないような措置をとること。

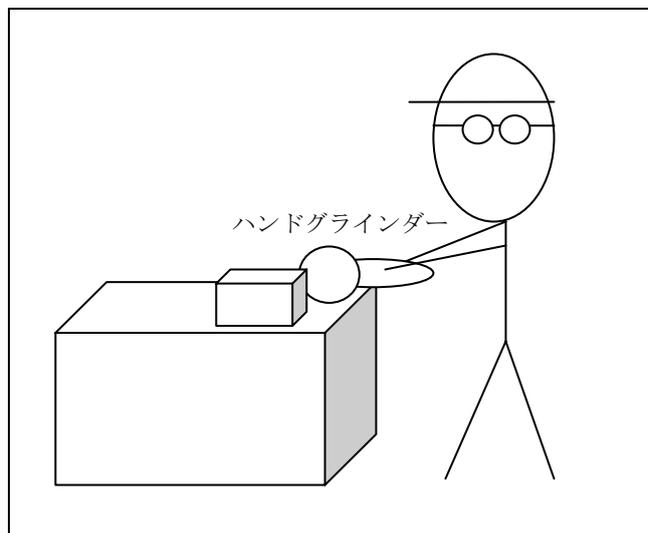
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般機械器具製造業		
災害の種類	飛来		
年齢	50代	職種	金属加工
傷病名	角膜感染症	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内において、研磨加工作業中、鉄の破片が右眼に刺さった。当時、保護メガネを装着していたが、メガネ下部の装着隙間より破片が進入したものの。

原因

1. 金属片が欠けて飛散し、作業者の目に入ったこと。
2. ハンドグラインダーにカバーが取り付けられていなかったこと。

対策

1. ゴーグル状の防じんメガネや保護面を着用すること。
2. ハンドグラインダーにカバーを取り付けること。
3. 砥石の回転方向と粉じんの飛散方向を確認し、作業者自身の方向へは粉じんが飛散しにくい部分で研磨すること。
4. ハンドグラインダーの点検を行うこと。
5. その他、防じんマスクを着用すること。

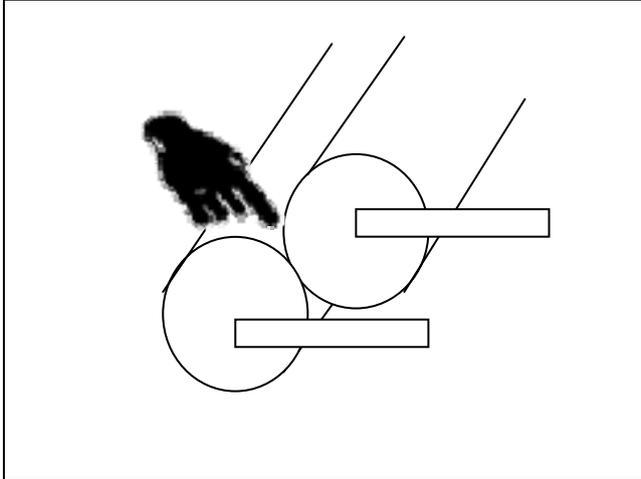
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般機械器具製造業		
災害の種類	巻き込まれ		
年齢	30代	職種	製造工
傷病名	右環指切断、中指骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内での機械の清掃作業において、ピンチローラーのスイッチを入れて回転させながらボロ布でローラー間の拭き取り作業中、指が巻き込まれ負傷した。

原因

回転しているローラーを停止させないで清掃作業を行ったこと。

対策

1. ローラーを止めてから清掃作業を行うこと。
2. ローラーを急停止させる設備を設けること。
3. ローラー回転のための寸動、手動の機構を設けること。
4. ローラーの清掃作業等について安全な作業標準を作成し徹底すること。
5. 回転中のローラーには近づかないよう、また、近づく必要がある場合にはローラーの回転を停止するよう、作業標準により労働者の教育を行うこと。

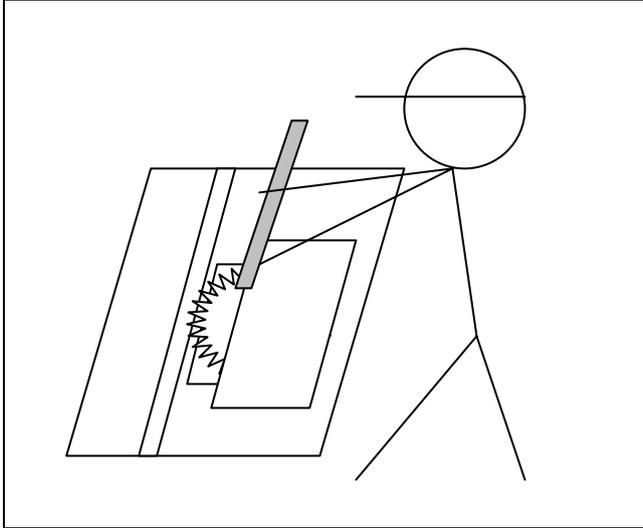
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	2	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	家具・装備品製造業		
災害の種類	切れ		
年齢	60代	職種	木工
傷病名	指切断	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内において、昇降盤により角材の溝切作業中、角材を左手で押さえ右手で押し削ろうとしたとき、汗が目に入り閉じた瞬間に角材の先端が歯に当たり跳ね上がったので、左手で押さえようとした際、指が歯に接触した。

原因

接触予防装置（安全カバー）を使用していなかったこと。

対策

1. 構造規格に適合した接触予防装置を使用すること。
2. 自動送り装置を設けること。
3. 手工具等を使用すること。

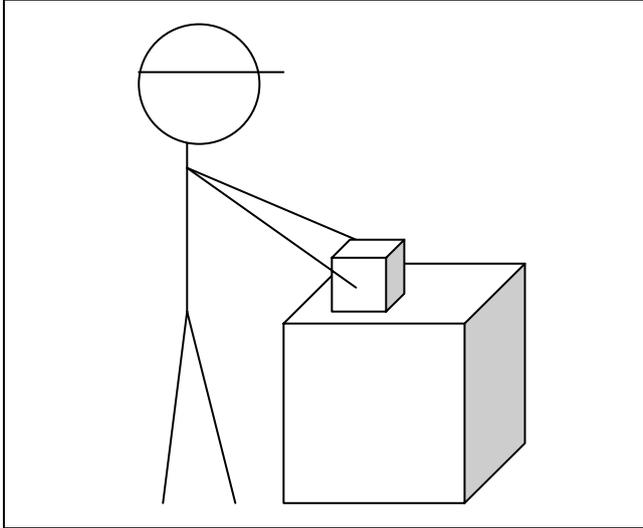
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	金属製品製造業		
災害の種類	無理な動作		
年齢	50代	職種	溶断工
傷病名	右肩腱板断裂	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内の製品切断作業台より切断後の製品（約17kg）を両手で持ち上げ、移動させる時、右腕に力を入れた瞬間、右腕を負傷した。

原因

腕に負担のかかるような方法で製品を持ち上げたこと。

対策

1. クレーンや台車又は助力装置を使用すること。
2. 作業姿勢は、できるだけ体を対象物に近づけて製品を持ち上げるような方法によること。
3. 作業姿勢等作業方法の安全な作業標準を作成し徹底すること。

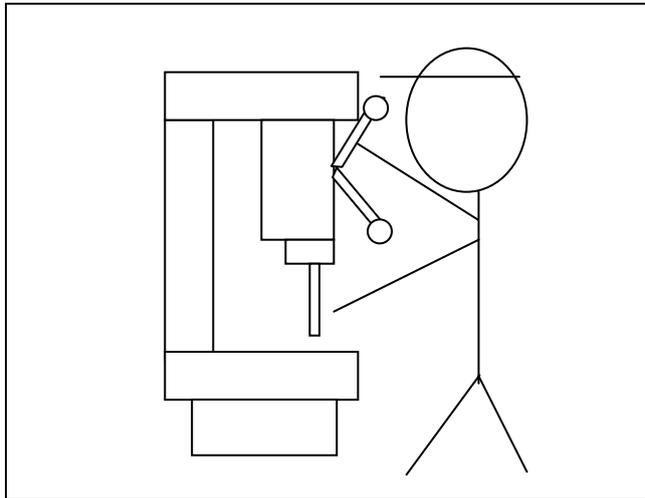
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	機械修理業		
災害の種類	金属加工用機械による巻き込まれ		
年齢	50代	職種	整備・修理工
傷病名	左中指末節骨開放骨折	休業見込み	2週間

図



労働災害発生状況

ボール盤で部品を加工中、穴をあけてドリルの刃先を上げる際に、左手の着用していた軍手が回転していたドリルに触れたため、巻き込まれ第3指を切傷した。

原因

1. 回転中のドリルに不用意に手を近づけたこと。
2. 軍手を着用していたこと。
3. ボール盤の作業手順が定められていなかったこと。

対策

1. ボール盤作業等回転する刃物に労働者の手指が巻き込まれるおそれがある場合は、手袋を使用させないこと。
2. ボール盤の作業手順を定め、安全教育の実施を徹底すること。

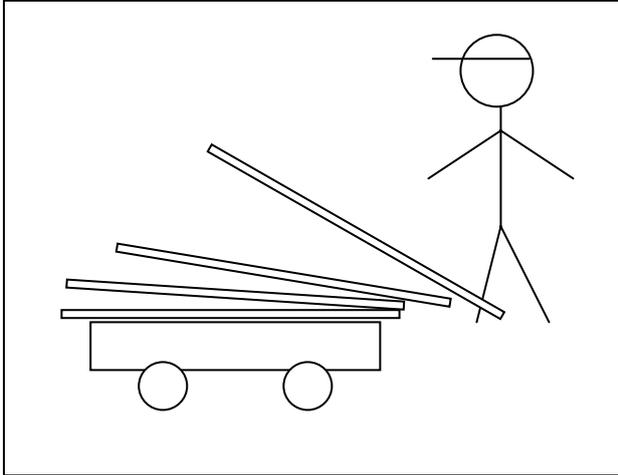
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	金属加工業		
災害の種類	材料による崩壊		
年齢	60代	職種	板金工
傷病名	右足親指骨折	休業見込み	3週間

図



労働災害発生状況

工場内において、幅 25 c m × 長さ 120 c m × 厚み 1. 6 m m の鉄板 約 2 0 0 枚を台車に積重ねて載せて運搬中、鉄板が荷崩れし、左足に当たった。

原因

1. 台車の荷台が積荷より小さい台車を使用したこと。
2. 積荷をロープ等で固定するなど荷崩れ対策をしなかったこと。
3. 安全靴を着用していなかったこと。

対策

1. 台車は積荷より荷台が広い台車を使用すること。
2. 荷崩れのおそれがある場合は、積荷をロープ等で固定するなど荷崩れ対策を講じること。
3. 重量物の崩壊・落下等による足指の被災のおそれがある作業については安全靴を着用させること。

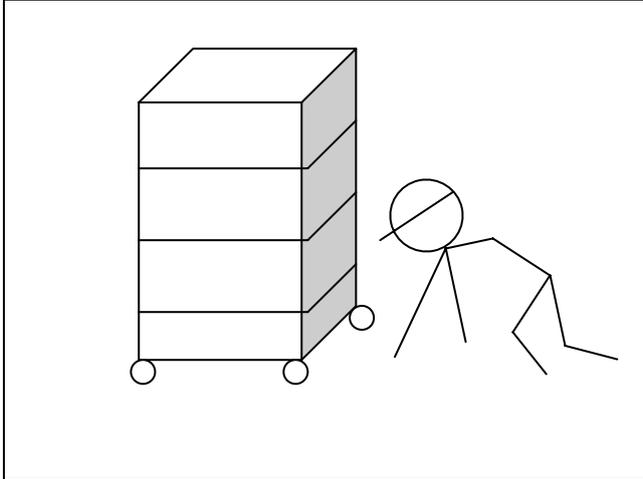
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	II
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	食料品製造業		
災害の種類	作業床が濡れていたことによる転倒		
年齢	50代	職種	パン製造
傷病名	左足膝蓋骨々折	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

工場内でパンを載せるラック（長さ 100 c m幅 40 c m高さ 150 c m）を移動させていた時床面が濡れていたため滑って転倒し両膝をコンクリート床に打ち付けた。

原因

1. 床が濡れて滑りやすい状態であったこと。
2. ラックにより前面が見えにくかったこと。

対策

1. 水に濡れても滑りにくい床に改善すること。
2. 転倒災害だけを防止するためには次の対策が考えられる。
 - イ 滑りにくい靴を用意すること。
 - ロ 膝当て等不意の転倒があっても被災しない保護具を用意すること。
 - ハ 出来る限り作業分担することにより危険によるリスクも分担すること。
3. 水に濡れることをなくすことが可能か検討すること。
4. 水に濡れて滑りやすくなったことを表示すること。
5. 水に濡れて滑りやすくなった場合に滑りにくいマット等を敷くこと。

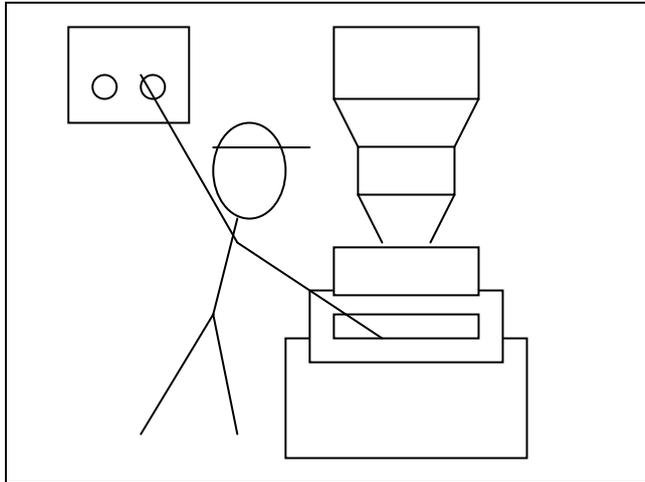
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	食料品製造業		
災害の種類	食品加工機械による巻き込まれ		
年齢	20代	職種	製造工
傷病名	右手第3指神経断裂	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

形成機により〇〇ボールという製品を形成していたところ、形状が球状にならなくなったため、操作盤の停止ボタンを押したものの機械が停止したかを確認しないまま、具材が詰まっていないかを確認するため、製品排出部に右手指を差し入れたところ、スライドカッターが止まっておらず手指が巻き込まれた。

原因

1. 形成機のスライドカッターが止まったことを確認しなかったこと。
2. スライドカッターの作業手順が定められていなかったこと。

対策

1. 機械の停止を確認してから作業を行うこと。
2. スライドカッターが作動している場合に手指が入らない構造とすること。
3. パイロットランプの点灯等スライドカッターが作動していることが判断可能な構造とすること。
4. 形成機について作業標準を定め、上記の対策が困難な場合は治具の使用の徹底など、安全教育の実施を徹底すること。

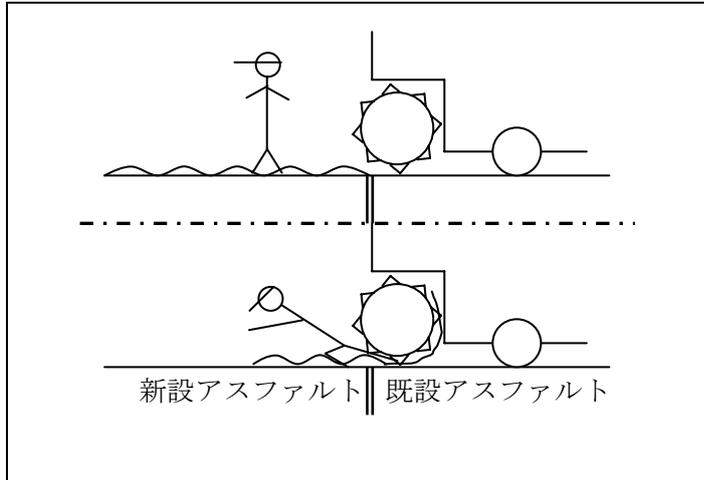
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	舗装工事業		
災害の種類	巻き込まれ		
年齢	30代	職種	重機オペレータ
傷病名	左足切断、骨盤骨折	休業見込み	6ヶ月

図



労働災害発生状況

歩道の既設アスファルトの表層を切削機で切断するため、オペレーターが回転させた切削ドラムを路面に下ろしたところ、排水性舗装の養生のため敷設してあったブルーシートが切削ドラムに巻き込まれ、ブルーシート上にいた被災者が足下をすくわれて転倒し、左足を回転ドラムに巻き込まれた。

原因

1. ブルーシートに切削ドラムを近づけすぎたこと。
2. 被災者が切削ドラムに近づきすぎたこと。
3. 切削機に切削ドラムに接触しないようバーが取り付けられていたが、全面カバーが取り付けられていなかったこと。
4. 小型切削機についての作業標準が作成されていなかったこと。

対策

1. 切削作業中は、ブルーシート上に乗らないこと。
2. 誘導員を配置すること。
3. 切削ドラムに全面カバーを取り付けること。
4. 作業標準を作成し、関係作業員に周知すること。

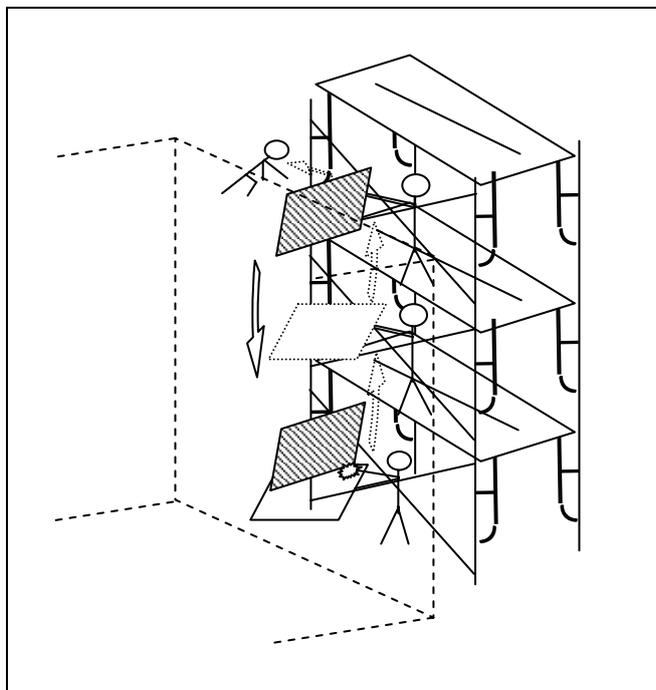
リスクアセスメント

重大性	10	可能性	2	頻度	1	リスクレベル	IV
-----	----	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業		
災害の種類	落下		
年齢	20代	職種	型枠解体工
傷病名	右人差指骨折	休業見込み	3ヶ月

図



労働災害発生状況

型枠解体作業中、足場2層目から解体したパネルを上へ持ち上げた作業員が、手を滑らしたため、パネルが落下し、下にいた作業員が、同人が持っていたパネルと落下したパネルの間に指を挟まれ負傷した。

原因

1. 型枠材を引き上げるのに上下同時に作業をしていたこと。
2. 型枠解体作業について、作業員間で十分な打合せをしていなかったこと。

対策

1. 上下同時作業を避け、一方の作業が終わったのを確認して他方の作業を行うこと。
2. 作業を開始前に、作業手順について十分な打合せを行い、各作業員に周知すること。

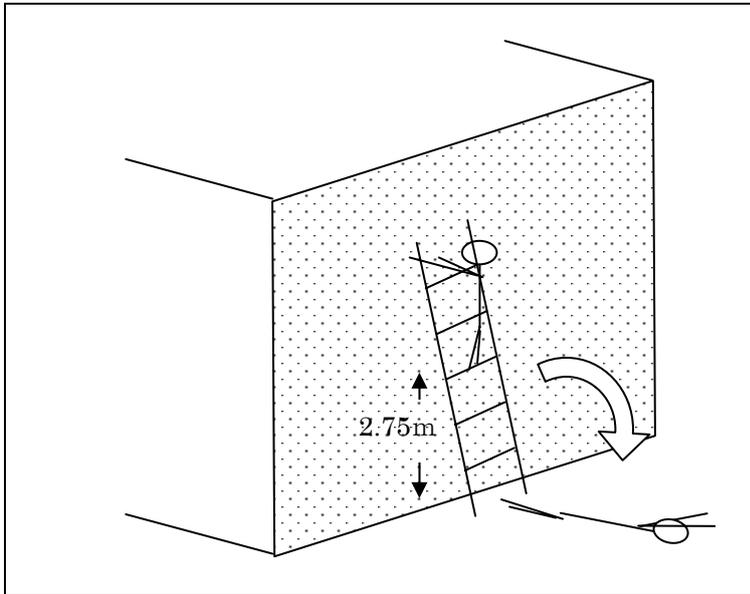
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	電気工事業		
災害の種類	墜落		
年齢	50代	職種	電気工事士
傷病名	頭蓋骨骨折	休業見込み	4ヶ月

図



労働災害発生状況

工場建物の電気ケーブルの配線を行うために被災者が工場の外壁に架けた移動はしご上で作業をしていた際、2.75mの高さからコンクリート上に墜落した。

原因

1. 作業床の設置による危険防止措置を講じていなかったこと。
2. 十分な広さのない移動はしごの上で作業を行い、また、安全帯の使用等の墜落防止措置を講じていなかったこと。
3. 保護帽を着用していなかったため、コンクリート床に直接頭部を打ちつけたこと。

対策

1. 足場の設置または高所作業車の使用などにより、安全な作業床を確保すること。
2. 作業床の設置が困難な場合、安全帯の使用や防網の設置、墜落危険防止用保護帽の着用等、危険防止対策を徹底すること。

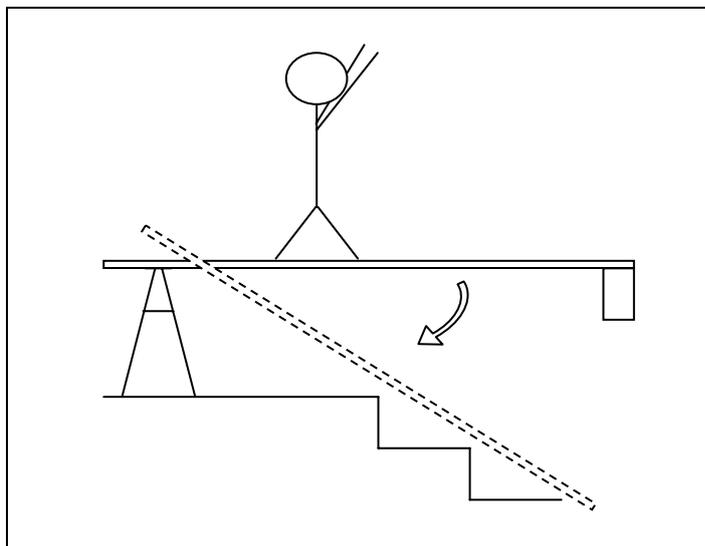
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	木造家屋建築工事業		
災害の種類	転落		
年齢	60代	職種	大工
傷病名	足首骨折	休業見込み	3ヶ月

図



労働災害発生状況

木造住宅の玄関ポーチにて天井下地取り付け作業を行っている時、脚立最上部と梁材に木製足場板（幅15cm）を掛けただけの状態で足場とし、天井を見るような態勢で作業を行っていたところ、足場板が転落してしまい、作業を行っていた労働者も床面に転落し負傷した。

原因

脚立と梁材に掛け渡していた足場板がずれてしまい転落したこと。

対策

天井が高くない箇所の内装工事等で低い作業床が必要な場合は、次の点に注意すること。

- ①作業床の高さが2m以上の場合は、脚立を使用しないこと。
- ②足場板3点以上の支持物（脚立等）に掛け渡し、両端はバンドで支持物に緊結すること。
- ③支点からの突出部（はね出し）の長さは20cm程度とする。
- ④積載荷重は150kg以下/1スパンとする。
- ⑤脚立の開き止めがしっかり掛かっていることを確認すること。

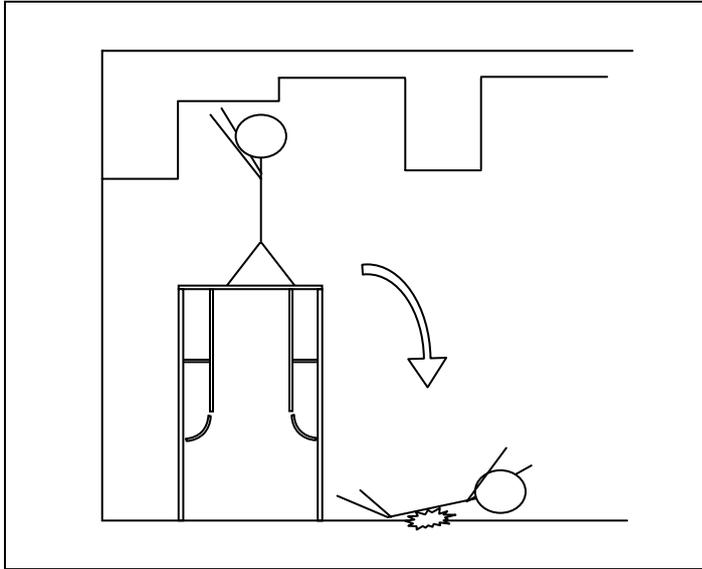
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	R C造建築物解体工事		
災害の種類	墜落		
年齢	20代	職種	型枠解体工
傷病名	胸椎圧迫骨折	休業見込み	5ヶ月

図



労働災害発生状況

R C造建築物の解体工事の現場において、3階天井付近に断熱材として取り付けられていた吹き付けウレタン材の撤去作業中、枠組み足場（高さ1.8m）から足を踏み外し、後ろ向きに墜落し負傷した。

原因

作業床として使用していた足場について、墜落防止のための手すりが設置されていなかったこと。

対策

1. 足場の高さが2m以下の場合であったとしても、墜落することにより被災することが十分考えられるため、墜落防止のための手すりを設けること。
2. 作業の性質上、手すりを設けることが困難な場合には、作業者には必ず安全带等を使用させること。

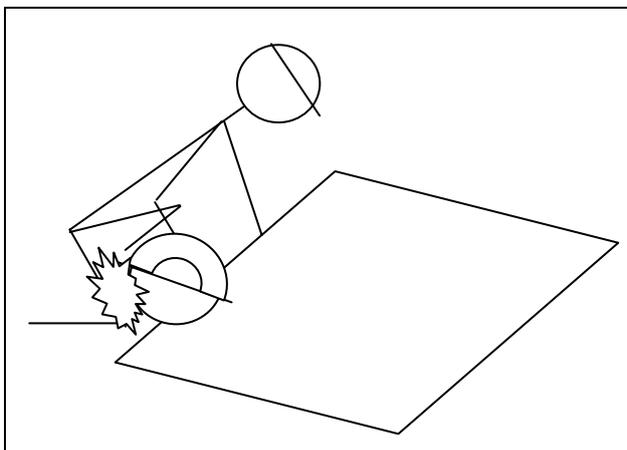
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	R C 造建築工事業		
災害の種類	切れ		
年齢	50代	職種	型枠大工
傷病名	右膝裂傷	休業見込み	6ヶ月

図



労働災害発生状況

型枠材を加工するため、手持ち電動丸ノコ盤を右手で持って右膝を地面についた姿勢になり、地面に敷いた型枠材を切断しようとしたところ、電動丸ノコの歯がズボンに接触した状態のままスイッチを入れてしまったため、ズボンを巻き込むようにして右膝を負傷した。

原因

1. 電動丸ノコ盤の構造が不明であるが、接触予防装置（安全カバー）が有効に機能しない状態で使用していたこと。
2. 回転する丸ノコ盤の歯と膝部が接触するような不安全な姿勢で作業を行っていたこと。

対策

1. 接触予防装置が有効に機能するよう作業開始前に点検整備を行い、作業者に対しては安全装置を有効に機能させて作業を行うよう教育を徹底すること。
2. 電動丸ノコ盤を使用する際は専用の作業台等を設け、安全な姿勢で作業が行えるようにすること。
3. 丸ノコの安全カバーは作業者任せとならないように、管理者がパトロール等により使用状況を確認すること。

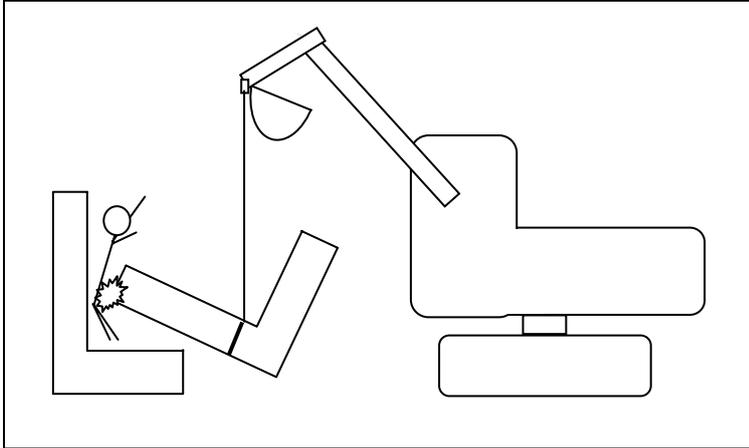
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	土木工事業		
災害の種類	激突され		
年齢	20代	職種	土工
傷病名	骨盤部骨折	休業見込み	4ヶ月

図



労働災害発生状況

トラック荷台に積んであった重量1.6tのL型擁壁を移動式クレーン機能付きドラグショベル（吊り上げ荷重2.9t）にて荷降ろし作業を行っていたところ、先に下ろしていたL型擁壁と移動式クレーンで吊っていたL型擁壁との間に挟まれ負傷したものの。

原因

1. 移動式クレーンのオペレーターについては小型移動式クレーン技能講習を修了しておらず、移動式クレーン運転免許も取得していない状態であり、移動式クレーン操作について未熟であったこと。また荷外し作業を行っていた被災者についても玉掛け作業技能講習を修了しておらず、玉掛け作業に関して未熟であったこと。
2. 移動式クレーンの可動範囲内で待機していたこと。

対策

1. 移動式クレーンを用いて作業を行う場合には、必ず有資格者によって運転操作を行わせること。また玉掛け作業についても同様である。
2. オペレーターと玉掛け作業者による作業の事前打ち合わせを行うこと。
3. 移動式クレーンの可動範囲内は接触による危険があるので、立ち入り禁止措置を行うこと。

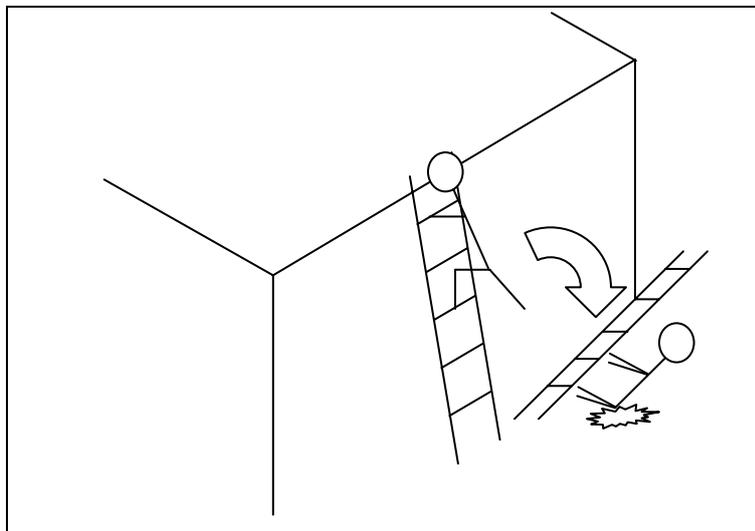
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	1	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	機械据付工事業		
災害の種類	墜落		
年齢	40代	職種	多能工
傷病名	左踵骨骨折	休業見込み	3ヶ月

図



労働災害発生状況

機械据付現場において、事務所から地下にある作業場所へ向かう為にはしごを使って降りようとしたところ、自分でははしごが固定されているものと思い込んでいたが、実際は固定されておらず、壁に立てかけてあっただけの状態であったためはしごのバランスが崩れ、はしごごと約3m下の床に墜落し負傷した。

原因

はしごの転位を防止する措置を講じていなかったこと。

対策

- 移動はしごは、次の事項に適合したものを使用し、安全対策を講じること。
- ①丈夫な構造とすることとし、材料は著しい損傷、腐食が無いものとする。
 - ②幅は30cm以上とする。
 - ③はしごの脚部には滑り止め装置の取り付け、はしご上部を固定する等の転位を防止するための措置を講じること。
 - ④移動式はしごを立て掛けて使用するときは、メーカー指定の角度を遵守すること。

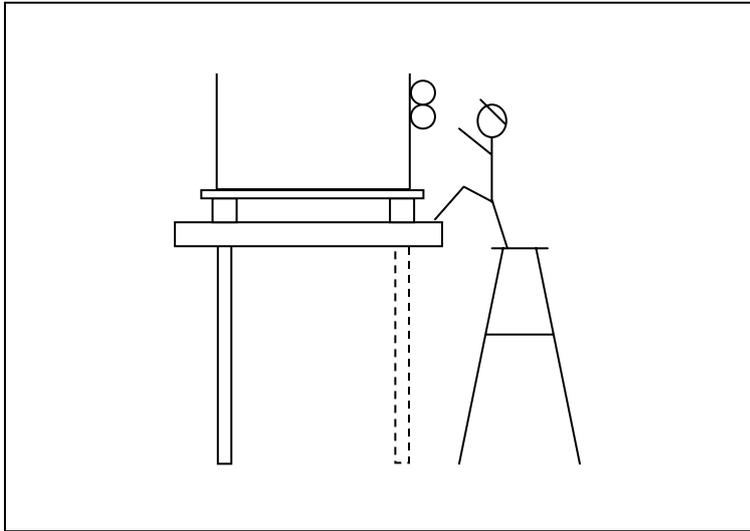
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	RC 造建築工事業		
災害の種類	転落		
年齢	30代	職種	大工
傷病名	両足踵骨骨折	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

建築現場内において型枠の解体作業を行っていたところ、梁型枠に使用されていた締め付けボルトが脱落しそうになっているのを発見したため、脚立（高さ1.8m）の天板に上り、片足を梁型枠の底部に掛けようとしたところ、身体のバランスを崩してしまい、コンクリートスラズ上に転落し負傷した。

原因

片足を脚立の天板に乗せ、もう片足を梁型枠に掛けるという不安定な状態で作業を行おうとしたこと。

対策

1. 安全な作業床を設けること。
2. 作業床を設けることが困難な場合は安全帯を使用すること。

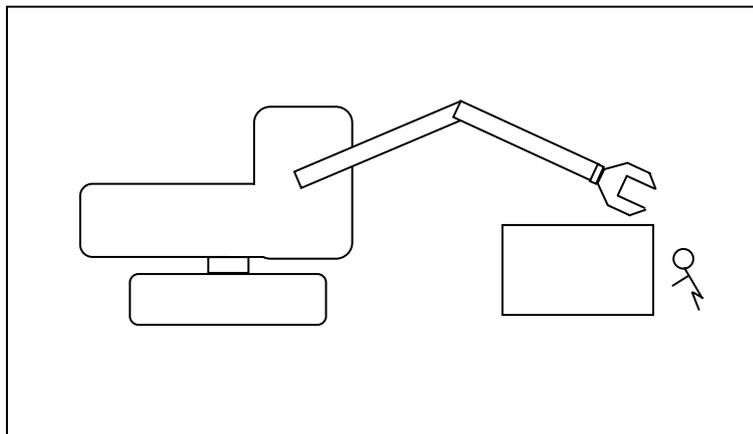
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	II
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	RC 造建築物解体工事		
災害の種類	はさまれ		
年齢	30代	職種	解体手元
傷病名	骨盤骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

解体工事現場において解体用重機を運転し、廃材を入れるコンテナボックスを移動させようとしたところ、その傍にて別の作業員が手作業で廃材をコンテナボックスに入れる作業を行っていたため、解体用重機のアタッチメントでコンテナボックスと同時に、後ろにいた作業員の作業服をも掴んでしまい、作業員はそのまま引きずられ負傷した。

当時、被災者はコンテナボックスの後ろで屈む様な姿勢で作業を行っていたため、重機オペレーターからは見えない状態であった。

原因

1. 重機に接触するおそれのある範囲内で被災者が作業を行っていたこと。
2. オペレーターが被災者の存在を十分に確認することなく作業に取り掛かったこと。
3. アタッチメントでコンテナボックスを掴み、移動させようとしたこと。

対策

1. 重機に接触することにより労働者に危険が生ずるおそれのある箇所については、立ち入り禁止の措置を講じる必要がある。なお、措置が困難な場合には誘導者を配置し誘導させること。
2. アタッチメントはあくまで解体作業が主たる用途であることから、コンテナボックスを吊り上げるなどの作業を行う際はクレーン等を使用すること。

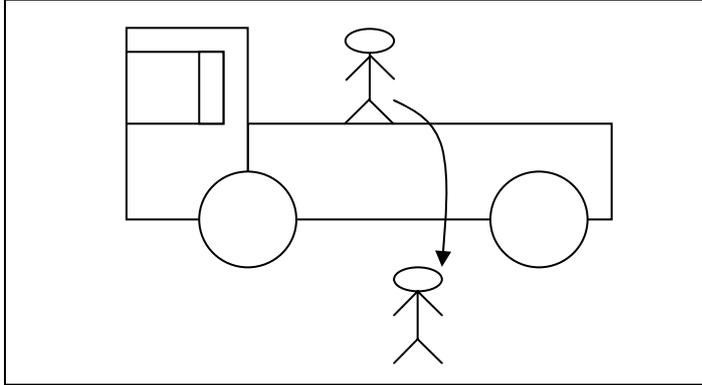
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	2	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	墜落		
年齢	40代	職種	重機オペレーター
傷病名	足首骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

10 tトラックに荷を積み終え、荷崩れ防止のためのワイヤをかけていたところ、足が滑りトラック荷台上から墜落した。

原因

1. 足元への注意が不十分であったこと。
2. 墜落防止用対策が講じられていなかったこと。

対策

1. 荷の上での作業では、溝が深く滑りにくい安全靴等を使用すること。
2. 墜落防止用保護帽を着用し「あご紐」を確実に締めること。
3. 可能な限り安全帯を使用すること。
4. 荷の重量が100kg以上のものを貨物自動車等から積卸しの作業を行うときは、作業指揮者を定め、次の事項を行わせること。
 - ①作業の方法及び順序を決定し、作業を指揮する。
 - ②器具及び工具を点検し、不良品を取り除く。
 - ③作業箇所、関係労働者以外の労働者を立ち入らせない。
 - ④ロープ解きの作業及びシート外しの作業を行うときは、荷台上の荷の落下の危険がないことを作業前に確認する。
 - ⑤服装や必要な保護具などについて、正しく着用しているかチェックする。
5. 最大積載荷重5 t以上の貨物自動車の積み卸しの作業を行うときは、安全な昇降設備を設け使用すること。

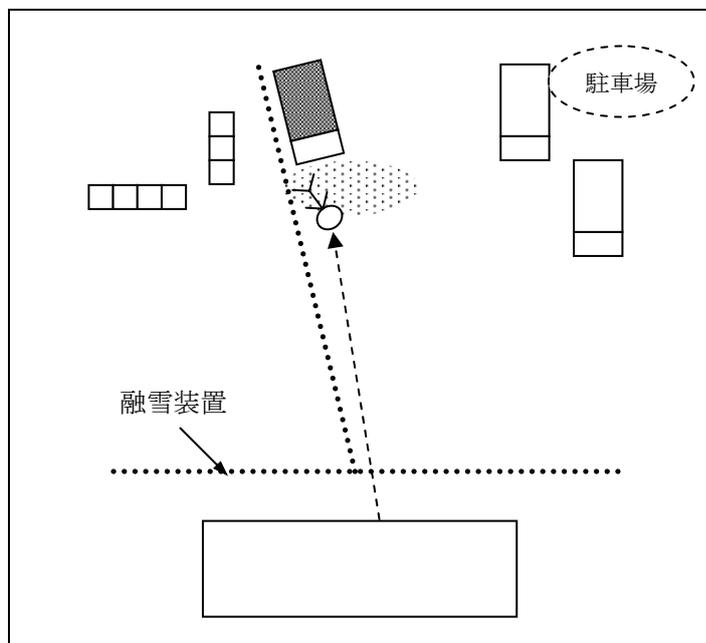
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	1	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	転倒		
年齢	60代	職種	運転手
傷病名	足首骨折	休業見込み	8週間

図



労働災害発生状況

作業開始のため、構内に駐車してあるトラックに向かったところ、構内の所々が凍結していたため、トラックの手前で滑り転倒した。

原因

1. 滑りやすい履物を履いていたこと。
2. 移動する際に通路の凍結状況等を十分に確認していなかったこと。

対策

1. 冬季期間中、特に朝方は通路等の凍結により滑りやすい状態となっており、通路等の状況について十分に確認を行い、滑りにくい履物を着用したうえで移動すること。
2. 降雪時には通路の除雪を行い、凍結による転倒を防止するよう心掛けること。

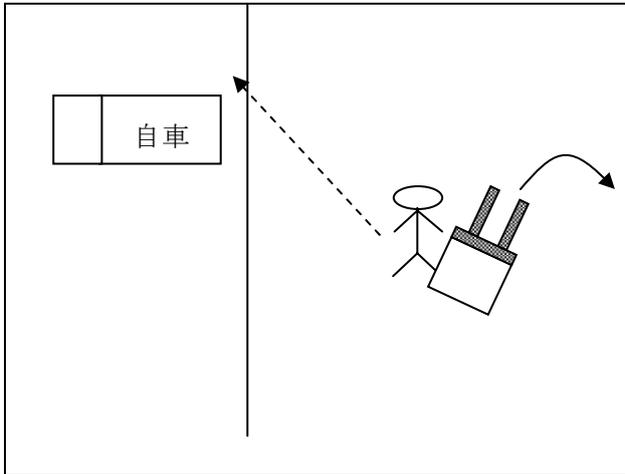
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	1	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	はさまれ		
年齢	50代	職種	運転手
傷病名	中足骨骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

作業を終え、トラックに戻ろうとしていたところ、荷物を仕分け中のフォークリフトの左側を通り過ぎようとした時、フォークリフトが急に右へ旋回したためよけきれずフォークリフト左後輪に右足を踏まれ負傷した。

原因

1. フォークリフトの運転者が周囲の状況を確認せずに運転していたこと。
2. 歩行者が周囲の状況について、注意を怠っていたこと。
3. 誘導者を配置していなかったこと。

対策

1. フォークリフトやその荷に接触し労働者に危険を及ぼす箇所に労働者を立ち入らせないこと。運転する際は周囲の状況を確認し、近くに作業者がいないか十分に確認したうえで運転すること。立ち入るおそれのある箇所で作業を行う場合は誘導者を配置し、その者に誘導させること。
2. 制限速度を定め、その周知徹底を行うこと。運転する際は制限速度を守り、急な方向転換は避けること。
3. フォークリフトを用いて作業を行う際は作業計画を作成し、関係労働者に周知を図ること。また、フォークリフトの運行経路と作業者の安全通路を区画表示し、作業者とフォークリフトが接触することないようにすること。

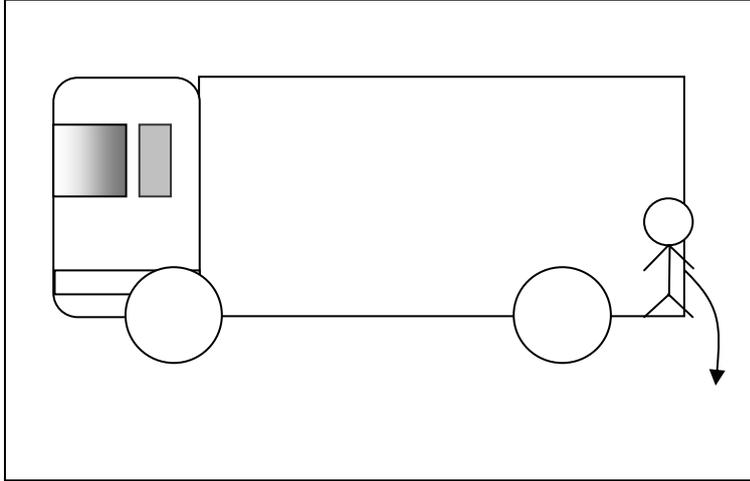
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	激突		
年齢	20代	職種	運転手
傷病名	足首靭帯損傷	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

荷卸しを行い、荷台上（高さ約1.1m）から降りようと、荷台から飛び降りた時、飛び降りたところに段差があり、足をひねり負傷した。

原因

降りる箇所の状況を十分確認せずにトラックの荷台から飛び降りたこと。

対策

1. トラックの荷台からは飛び降りないようにすること。
2. 荷卸し作業の作業標準等を作成し、荷台からの安全な昇降方法を定め、関係する労働者に周知を図ること。
3. 最大積載量5t以上のトラックで作業を行う時は安全に昇降するための設備を設けること。

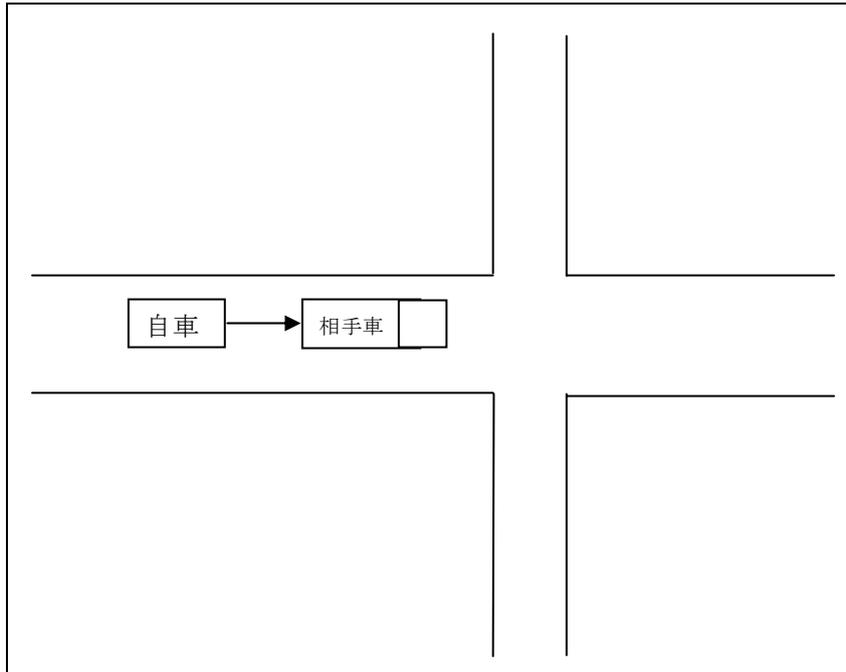
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	交通事故		
年齢	50代	職種	運転手
傷病名	内臓損傷、肋骨骨折、 肺挫傷	休業見込み	4ヶ月

図



労働災害発生状況

午前1時、国道交差点において、赤信号のため減速していた前方のトラックに後ろから追突した。

原因

前方不注意により、減速中のトラックの発見が遅れたため。

対策

1. 前方不注意にならない等、交通法規を遵守し運行すること。
2. 無理のない適切な運行計画を定めること。
3. 過労運転防止の観点から適切な労働時間管理を行うこと。

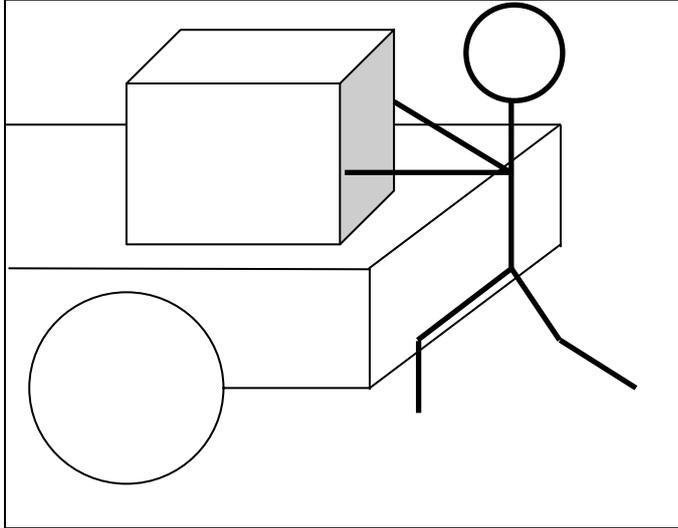
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	1	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	一般貨物自動車運送業		
災害の種類	無理な動作		
年齢	50代	職種	運転手
傷病名	アキレス腱断裂	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

製品の荷積み作業中、トラック荷台に積んだ荷物を荷台の奥に押し込もうとして足を踏ん張ったところ、足首に痛みがはしり、足の自由がきかなくなった。

原因

不自然な姿勢で、重量物を取り扱ったこと。

対策

1. フォークリフトや台車又は助力装置を使用すること。
2. 不自然な姿勢は取らないこと。
3. 作業標準等を作成し、作業時間、作業量、作業方法、使用機器等を示し、関係する労働者に対し周知を図ること。

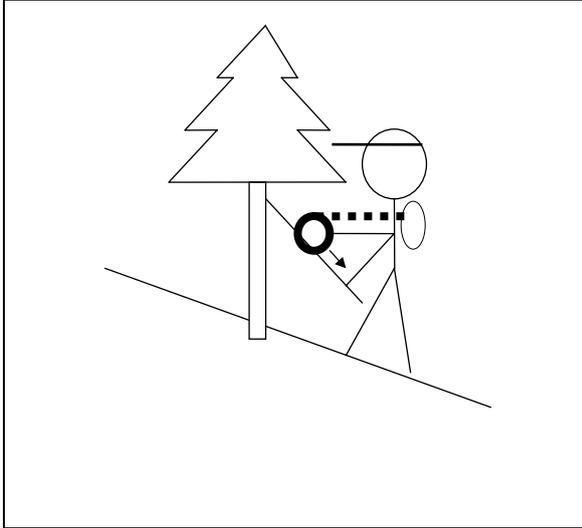
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	1	頻度	2	リスクレベル	II
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	その他の林業		
災害の種類	切れ		
年齢	30代	職種	造林作業員
傷病名	左手中指切創	休業見込み	7日

図



労働災害発生状況

造林作業現場において、アテ（樹高約1.5m）の枝打作業を行っていた際に、倒木起し用バンドを木から外すため、左手でバンドを持ち、右手で枝打機を使用して切断したところ、バンドが枝打機の刃の回転軸に巻きつき、バンドを持っていた左手が刃に接触し負傷した。

原因

ひも状のバンドを切断する際に、巻き込まれるおそれがあったにもかかわらず回転する刃物を持つ機械を使用したこと。

対策

1. ひも状のものを切断する際には、回転する刃物を持つ機械ではなく、なた・鎌等の手工具を使用すること。
2. 安全な作業標準を作成し、労働者に対し周知徹底を図ること。

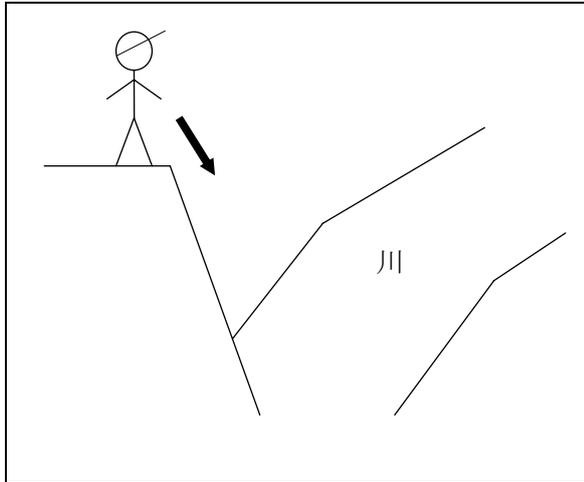
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	農業		
災害の種類	転落		
年齢	40代	職種	草刈作業員
傷病名	脳挫傷	休業見込み	死亡

図



労働災害発生状況

農道脇の農業用水路の清掃のため、草刈作業を行っていた際に、刈り取った雑草の片付けをしていたところ、誤って足を滑らせ約10m下の川へ転落し死亡した。

原因

川沿いの高所での作業であり墜落のおそれがあったにもかかわらず、墜落防止措置をとらなかったこと。

対策

手すり・親綱等の墜落防止措置を図り、安全带を使用すること。

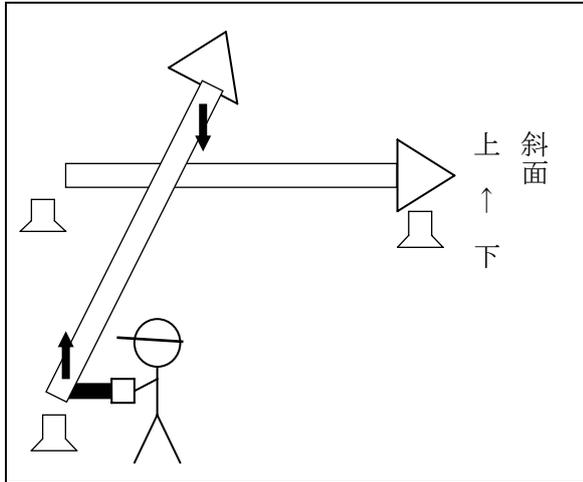
リスクアセスメント

重大性	10	可能性	6	頻度	2	リスクレベル	IV
-----	----	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	その他の林業		
災害の種類	激突され		
年齢	50代	職種	造林作業員
傷病名	第3腰椎圧迫骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

伐木作業現場において、チェーンソーを使用して間伐材の伐倒作業を行っていたところ、斜面上方のすでに倒してある木の上に間伐材を倒したため、この原理で間伐材の元口側が跳ね上がり、腰部に激突し負傷した。

原因

1. 伐倒する際に、元口が被災者に接触するおそれがあったにもかかわらず、斜面上方向へ伐倒したこと及び、伐木作業の支障となる伐倒木があったにもかかわらず、除去しなかったこと。
2. 伐倒直後に伐倒木が跳ね上がるおそれがあったにもかかわらず、速やかに退避場所へ避難しなかったこと。

対策

1. 伐倒する際には、伐倒する立木の状態、周囲の伐倒木の状況、地形等を考慮して伐倒方向を選定すること。また、伐木作業の支障となる伐倒木等は除去しておくこと。
2. 伐倒後は速やかに退避場所へ避難すること。

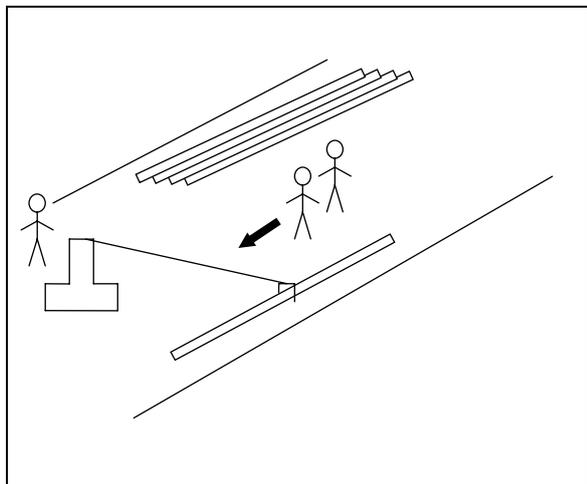
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	その他の林業		
災害の種類	激突され		
年齢	60代	職種	造林作業員
傷病名	左大腿骨々幹部骨折	休業見込み	3ヶ月

図



労働災害発生状況

間伐・搬出作業現場において、集材機を使用して間伐材を搬出作業中、本来は集材機オペレーターの合図によって間伐材が着地した後にワイヤロープをはずしているが、被災時は間伐材が着地する前に近づいてしまい、間伐材が激突し負傷した。

原因

1. 間伐材の荷はずし作業を行う際に、合図が不十分なまま間伐材に近づいたこと。
2. 間伐材の荷はずし作業を行う際に、荷が降下することにより激突するおそれがあったにもかかわらず、荷の進行方向に立ち入ったこと。

対策

1. 間伐材の荷はずし作業を行う際には、オペレーターと荷はずしを行う者との合図の確認を徹底すること。
2. 間伐材の荷はずし作業を行う際には、荷が降下することにより激突するおそれがある場所を立入禁止とすること。
3. 安全な作業標準を作成し周知徹底を図ること。なお、機械集材装置の運転の業務は特別教育が必要なこと。

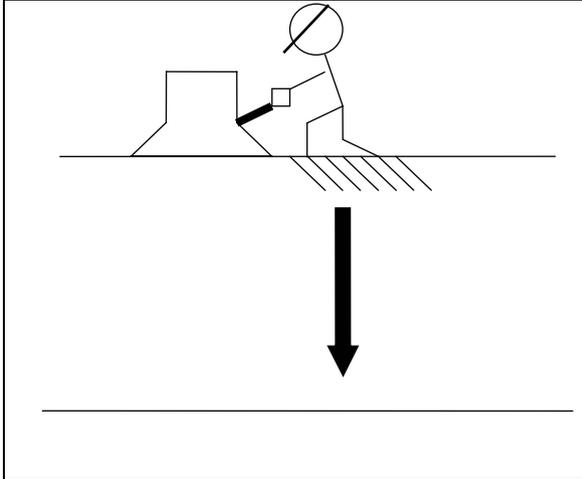
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	木材伐出業		
災害の種類	転落		
年齢	70代	職種	伐木作業員
傷病名	胸椎圧迫骨折	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

伐木作業現場において、崖の上部に生えているイチョウの大木を伐倒し、根元部分の切除作業を行っていたところ、伐倒作業の振動によりイチョウ周辺の地盤が軟弱になっていたため足元の地盤が崩れ、約3m下の地面に転落し負傷した。

原因

1. 足元の地盤が軟弱であり崩壊したこと。
2. 崖沿いの場所の作業であり転落のおそれがあったにもかかわらず、親綱等の転落防止設備を設けていなかったこと。

対策

1. 地盤が軟弱であり崩壊する恐れがある場合での作業を行わないこと。
2. 墜落の危険があるときは安全带等の墜落防止措置をとること。

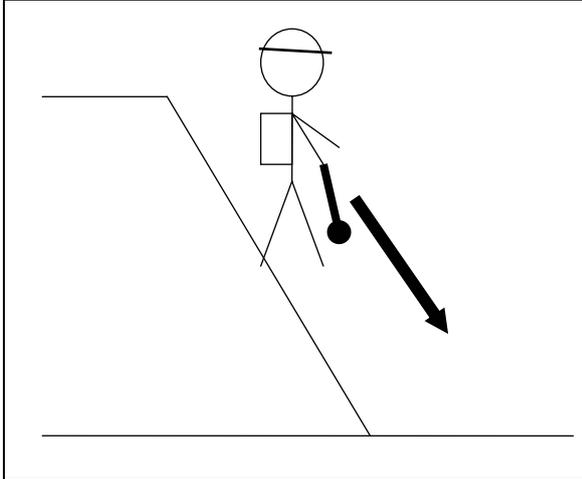
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	1	頻度	1	リスクレベル	I
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	農業		
災害の種類	転落		
年齢	30代	職種	農労作業者
傷病名	左足関節捻挫	休業見込み	3週間

図



労働災害発生状況

水田付近の土手（高さ約2m）の草刈作業終了後、刈払機を背負ったまま下の水田へ降りようとしたところ、土手の途中（高さ約1m）で足を滑らせ転落し負傷した。

原因

高さ約2mの土手を昇降する際に転落するおそれがあったにもかかわらず、安全に昇降するための設備等を設けなかったこと。

対策

1. 高さ又は深さ1.5mを超える箇所で作業を行うときは、安全に昇降するための設備を設けること。
2. スパイク付長靴等の滑りにくい履き物を着用すること。

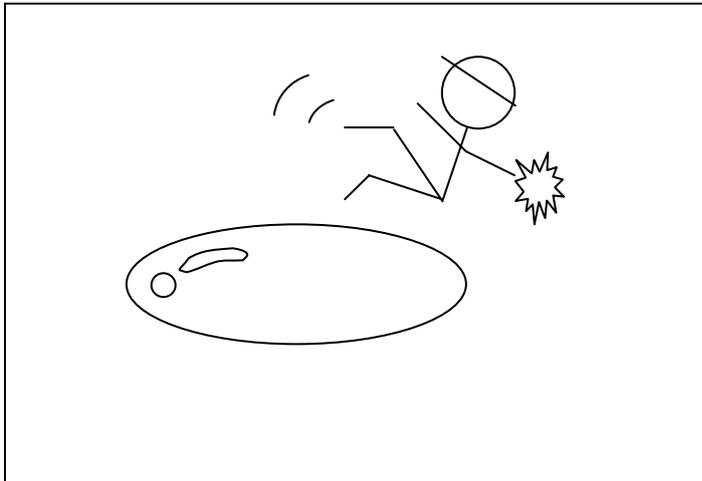
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	1	リスクレベル	II
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	新聞販売業		
災害の種類	転倒		
年齢	40代	職種	新聞配達員
傷病名	手首骨折	休業見込み	1週間

図



労働災害発生状況

朝刊を配達中、凍結した路面で滑り、転倒した際に左手をついて骨折したもの。

原因

1. 路面が凍結し、滑りやすい状態であったにもかかわらず、足元の確認を十分に行わず、履物に滑り止め等の対策を講じていなかったこと。
2. 夜明け前の時間帯は、外灯等の無い場所では周囲の明るさが不十分なため凍結の状況を確認しづらいこと。

対策

1. スパイク付きの長靴の着用や履物に滑り止めの装具を付ける等によって凍結路面でも滑らない対策を講じること。
2. 暗がりでの路面状況の確認のために、懐中電灯の携帯等の対策を講じること。

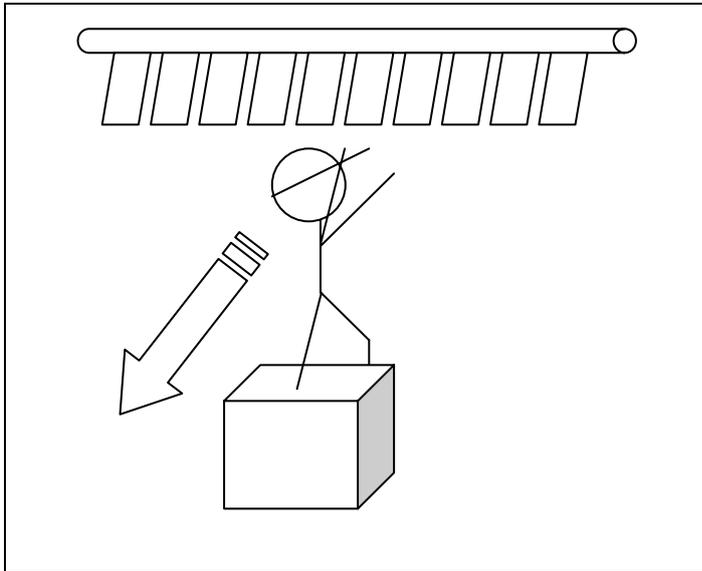
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	2	頻度	1	リスクレベル	II
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	その他の小売業		
災害の種類	転落		
年齢	60代	職種	店員
傷病名	右下腿部筋損傷	休業見込み	1ヶ月

図



労働災害発生状況

高さが約 80cm の台上で、売店内の天井吊り下げディスプレイを取り外す作業をしていた際、バランスを崩して床に転落したものの。

原因

作業に適した高さの踏み台を使用していなかったこと。

対策

必要な高さに適した踏み台を使用すること。

※ 高さが、2m に満たない比較的低い高さでの作業については、身近にあるものを安易に踏み台や作業床の代用とすることがしばしばあること。このような場合、不自然に伸び上がったり、かがみ込んだりと、代用した踏み台等に作業姿勢を合わせることになり、安定した作業位置を確保することが困難となること。

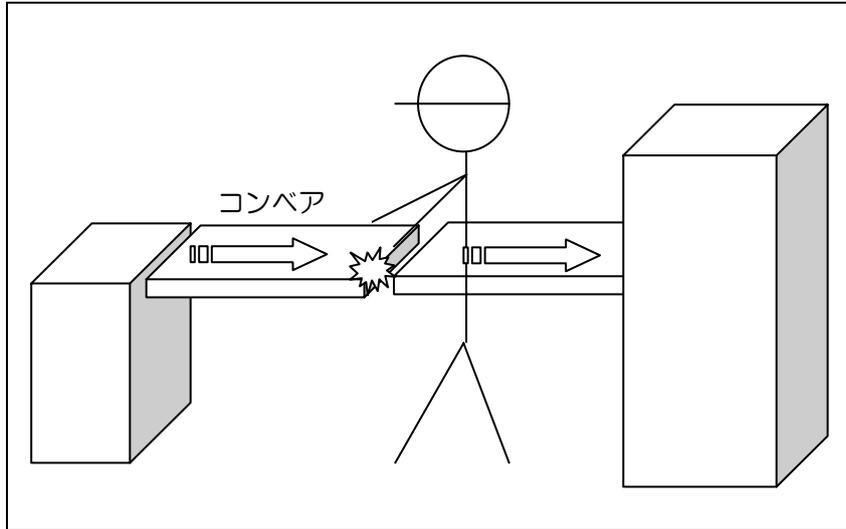
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	1	頻度	1	リスクレベル	I
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	その他の卸売業		
災害の種類	巻き込まれ		
年齢	20代	職種	梱包担当
傷病名	裂傷	休業見込み	3週間

図



労働災害発生状況

物流センター倉庫内で、包装機械にトラブルがあり、当該トラブル対応後、コンベアを起動させたところ、上流コンベアと下流コンベアの隙間に指を巻き込まれたもの。

原因

コンベアに手が巻き込まれるおそれのある箇所に覆いを設けていなかったこと。

対策

1. コンベアについては、手が巻き込まれるおそれのある箇所に全て覆いを設けること。
2. 非常停止装置を設けること。
3. トラブル対応後の再起動に係る作業標準を作成し、労働者に教育周知すること。

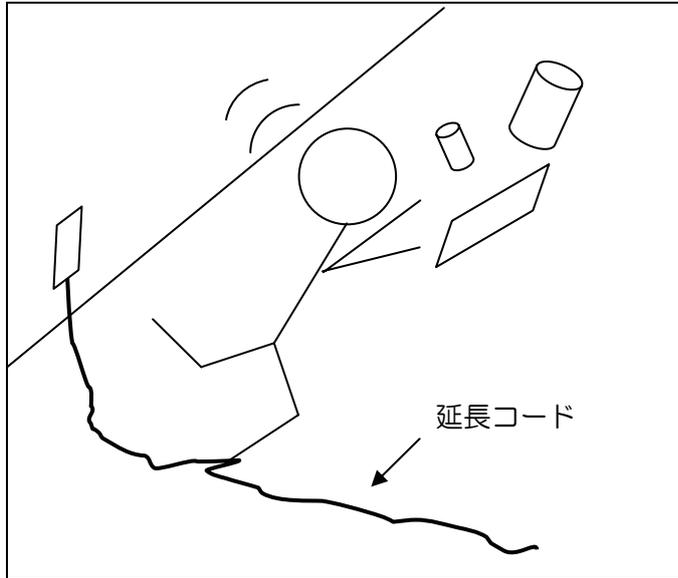
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	旅館業		
災害の種類	転倒		
年齢	50代	職種	接待
傷病名	右手首切創	休業見込み	1週間

図



労働災害発生状況

お盆の上に湯のみ、ポットを乗せて洗い場に行く途中、1階の廊下で共同トイレの修繕作業に使用していた延長コードに足が引っかかり転倒した結果、床に落ちて割れた湯のみで右手首を切ったもの。

原因

通路上に延長コードを這わせたままにしておいたこと。

対策

1. 通路上に障害物などつまずき、引っかかりの原因となるようなものを置かないこと。
2. 通路は常に有効な状態に保つ習慣にすること。
3. やむを得ず延長コードを使用するときは、足が引っかからないような措置を講じること。

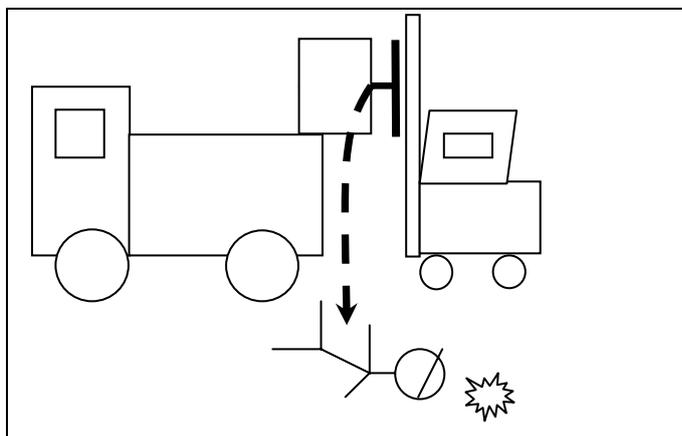
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	その他の清掃・と畜業		
災害の種類	墜落		
年齢	50代	職種	清掃作業員
傷病名	くも膜下出血、頭部裂傷	休業見込み	2週間

図



労働災害発生状況

工場の廃棄物置場において、廃棄書類の入った箱型ダストボックスをフォークリフトで持ち上げ、箱型ダストボックスからトラックの荷台へ廃棄書類を積み込む作業をしていたところ、トラックの荷台上での作業位置が確保できなくなったことから箱型ダストボックス内に入って積み込み作業をしたところ、箱型ダストボックス内で偏荷重となり、箱型ダストボックスごと地面に墜落し、頭部を地面に強打したものの。

原因

1. 墜落の危険があるにもかかわらず、フォークリフトの積荷上で作業を行っていたこと。
2. 適切な作業計画を定めていなかったこと。

対策

1. フォークリフトは、荷役作業に使用するための機械であり、原則として積荷やパレット上は労働者の作業するための作業床としないこと。
2. トラックの荷台以外に足場を用意するか、箱型ダストボックスに代わる収集方法とするなど、本来は箱型ダストボックス内に労働者が入って廃棄書類を出す必要がないような作業方法とすること。
3. やむを得ず箱型ダストボックス内に入って作業する必要がある場合は、安全帯を使用するなど、墜落防止措置を万全に講じた上で作業を行うこと。

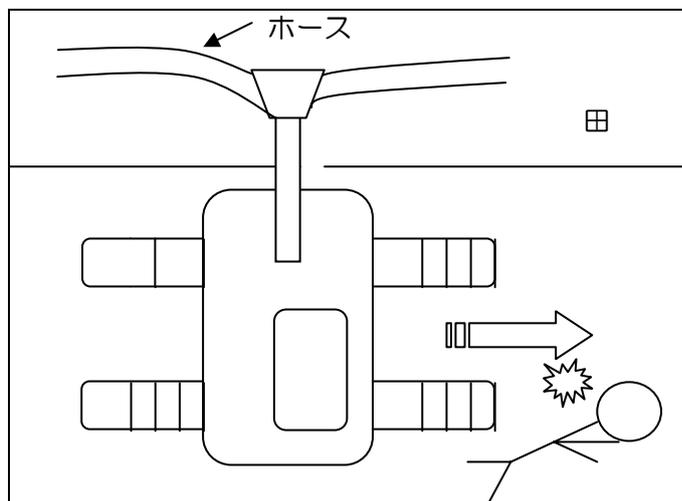
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	警備業		
災害の種類	はさまれ		
年齢	40代	職種	警備員
傷病名	頭部、胸部圧挫傷	休業見込み	死亡

図



労働災害発生状況

歩道改良工事現場において、排水ポンプ用のホースを撤収するため、ドラグショベルで排水ポンプ用のホースを吊り、運転席を進行方向に対して90度にしたままの状態でも移動したところ、交通誘導の為にドラグショベルの進行方法に回り込んだ被災者が、何らかの理由で転倒したのに気がつかず、頭部及び胸部を轢いたもの。

原因

1. ドラグショベルの接触する危険性のある箇所に交通誘導をする警備員を立ち入らせたこと。
2. 適切な作業計画を作成していなかったこと。

対策

1. ドラグショベル等車両系建設機械を使用して作業を行う場合は、
 - ①事前に作業内容を検討し、作業位置や走行範囲を記した作業計画を作成し、作業を行うこと。
 - ②移動範囲や旋回範囲内にはバリケード等で区画する等、原則として労働者を立ち入らせないこと。
 - ③やむを得ず労働者を立ち入らせる場合は、誘導員を配置し、その誘導員の指示のもとに作業を行うこと。
2. 誘導員には笛や旗を持たせ、作業前に合図の統一について車両系建設機械の運転手等と打ち合わせをしておくこと。

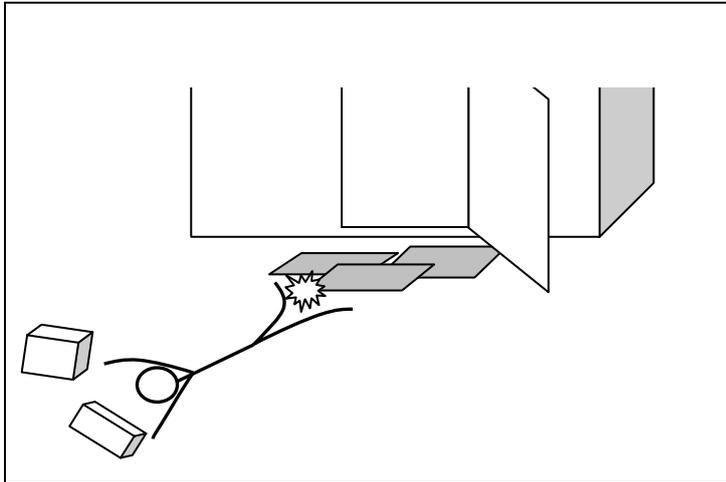
リスクアセスメント

重大性	10	可能性	6	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	----	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	その他の卸売業		
災害の種類	転倒		
年齢	60代	職種	パック詰め 他
傷病名	右足膝骨折	休業見込み	3週間

図



労働災害発生状況

両手に段ボールを持って冷蔵庫から出てくる際、出入口の足元に敷いてあった新聞紙（冷蔵庫の出入口付近が濡れるため敷いたもの）を踏んだ時に滑って転倒してしまい右足膝を骨折した。

原因

冷蔵庫の出入口が濡れた新聞紙で滑りやすい状態であったこと。

対策

1. 冷蔵庫の出入口が濡れた際は、随時清掃をして安全な状態を保持することや、滑りにくいマットを敷く等の転倒防止措置を講じること。
2. 滑りにくい作業靴の着用も厳守すること。
3. 冷蔵庫からの排水用の溝を設けること。

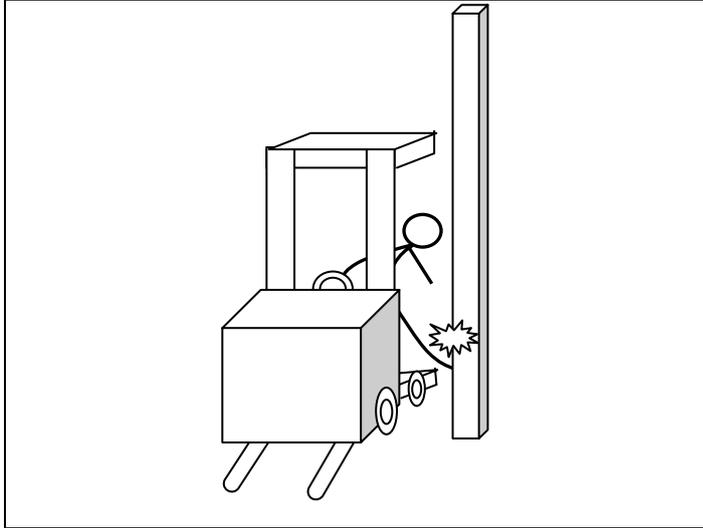
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	その他の卸売業		
災害の種類	はさまれ		
年齢	30代	職種	倉庫作業員
傷病名	左第1.2中足骨骨折	休業見込み	2ヶ月

図



労働災害発生状況

フォークリフト（立ち乗り用）で、荷物の仕分け作業を行っている際、運転操作を誤り、後方にあった柱に激突しそうになったので慌てて足を出して止めようとしたところ、柱とリフトの間に左足が挟まれ骨折した。

原因

運転者がフォークリフトの運転を誤ったことと、瞬時に足を出して動きを止めようとしたこと。

対策

1. フォークリフトは有資格者に運転させること。最大荷重が1t以上で技能講習、最大荷重1t未満であれば特別教育修了が必要であること。なお、継続的な安全教育等を行い運転技能の向上に努めること。
2. ブレーキ等について、法定の定期自主検査・始業前点検を行うこと。
3. フォークリフトを用いて作業を行うときは、作業場所の広さや地形、フォークリフトの種類や能力、荷の種類や形状に応じた作業計画を定め、その計画に基づいて作業を行うこと。

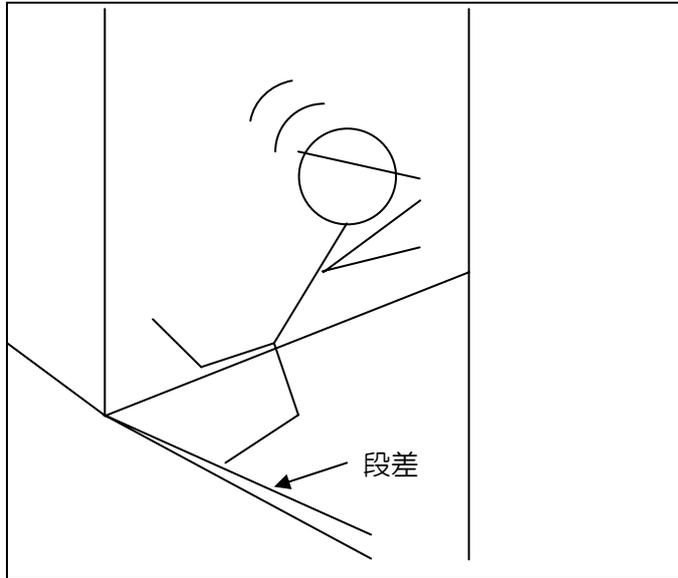
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	6	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	旅館業		
災害の種類	転倒		
年齢	60代	職種	接待
傷病名	右肩打撲	休業見込み	6日間

図



労働災害発生状況

調理場入口において、ご飯のおひつを取りに入ったところ、床に約1cm程度の段差があり、つまずいて転倒した際右肩を強打したもの。

原因

通路等に段差がある状態のままにしておいたこと。

対策

1. 段差を取り除くこと。
2. どうしても段差を解消できない場合は、労働者に段差の存在を知らせ、注意喚起する表示等が必要であること。

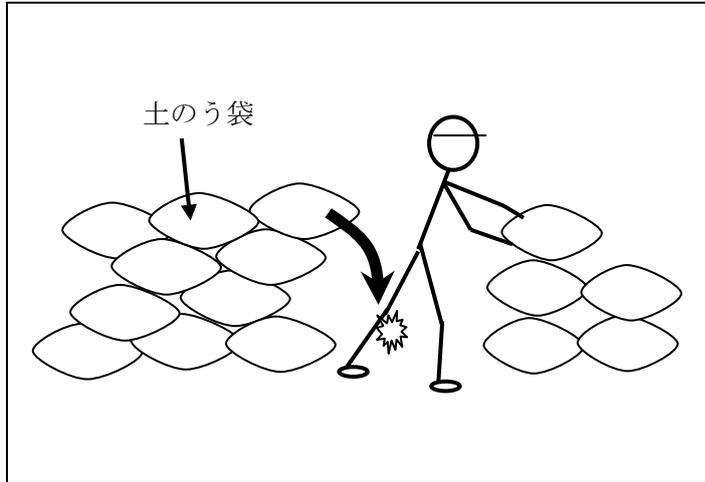
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	2	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	その他の教育研究業		
災害の種類	崩壊		
年齢	70代	職種	発掘作業員
傷病名	左膝内側靭帯損傷	休業見込み	1ヶ月半

図



労働災害発生状況

発掘調査現場において、積み重ねていた土のう袋（最高高さ：約1m）を移動させている際に、一番上段の土のう袋が左膝に落下してきた。

原因

はい積み作業における知識が不足していたため、適切に荷を積み上げることができず、不安定な状態であったこと。

対策

1. はい作業（穀物のようなバラバラな物以外の荷を人力等で、積んだり崩したりする作業）を行う際は、荷が落下しないよう安定させながら積み上げ、中抜きせず崩すようにすること。なお、荷の高さが2m以上となる場合には、はい作業技能講習修了者のうちから「はい作業主任者」を選任し、当該作業の指揮をとらせる必要があること。
2. 重量物を持ち上げる作業の為、中腰での作業や急激な動作等、腰部に負担をかける動作は避けること。

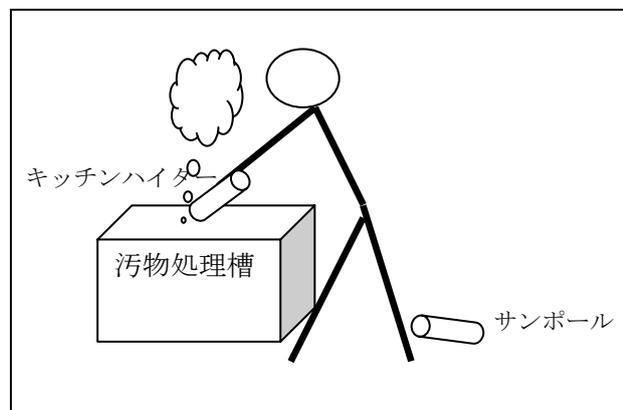
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	病院		
災害の種類	塩素ガス中毒		
年齢	50代	職種	看護補助者
傷病名	塩素ガス中毒	休業見込み	10日

図



労働災害発生状況

病棟トイレ内の汚物処理槽を塩酸含有洗剤であるサンポールを使用して清掃していたが、汚れが落ちないため、さらに次亜塩素酸ナトリウム含有洗剤であるキッチンハイターを続けて使用したところ、塩素ガスが発生し、作業中に吸引したものの。

原因

1. 酸性の塩酸含有洗剤であるサンポールとアルカリ性の次亜塩素酸ナトリウム含有のキッチンハイターを続けて使用したため、両方の液が混ざり、化学反応 ($\text{NaClO} + 2\text{HCl} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O} + \text{Cl}_2$) により塩素ガスが発生したこと。
2. サンポールとキッチンハイターの注意書きには混液禁止の表示があるが、作業者がこれを理解していなかったこと。
3. 塩酸含有洗剤や次亜塩素酸ナトリウム含有洗剤を用いて作業を行わせる労働者に必要な安全衛生教育を行っていないこと。

対策

1. 塩酸含有洗剤や次亜塩素酸ナトリウム含有洗剤を続けて使用する作業では、混液しないように前に使った洗剤をよく洗い落とし使用すること。
2. 作業を行わせる労働者に必要な安全衛生教育を行うこと。
3. 混液禁止の洗剤を用いる作業場所にわかりやすい混液禁止の注意表示を掲示すること。

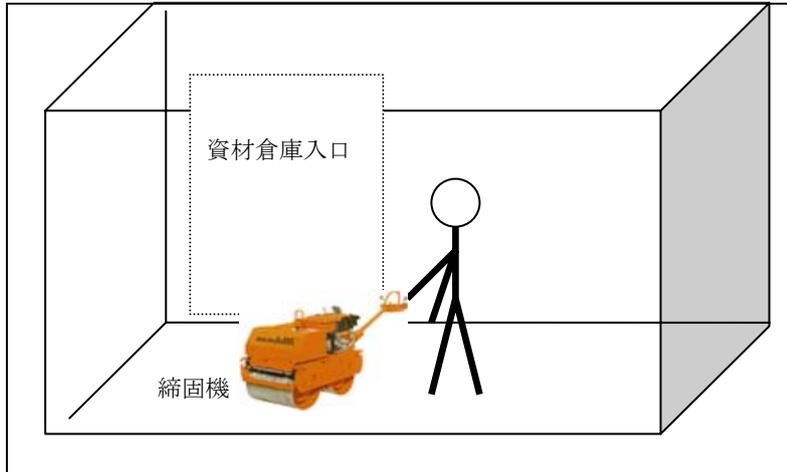
リスクアセスメント

重大性	6	可能性	2	頻度	2	リスクレベル	III
-----	---	-----	---	----	---	--------	-----

災害事例シート

業種	建設業		
災害の種類	騒音による難聴		
年齢	40代	職種	建設作業員
傷病名	音響外傷	休業見込み	20日

図



労働災害発生状況

資材倉庫内で締め固め機の整備・試運転作業中に締め固め機とコンクリート床がぶつかり合う大音響により左耳を痛め、耳鳴り難聴の症状のため入院した。

原因

1. 資材倉庫内のコンクリート床上で締め固め機の整備・試運転作業を行ったこと。
2. 締め固め機とコンクリート床がぶつかり合う大音響が発生することが予見できたのに作業員に耳栓等の防具を使用させなかったこと。
3. 騒音作業の安全衛生教育を行っていなかったこと。

対策

1. 締め固め機の整備・試運転作業は、資材倉庫から出て屋外の柔らかな地盤で行うこと。
2. 大音響が発生することが予見できる締め固め機の整備・試運転作業を屋内作業場において実施させる場合は、作業員に耳栓等の防具を使用させること。
3. 騒音作業の安全衛生教育を行うこと。

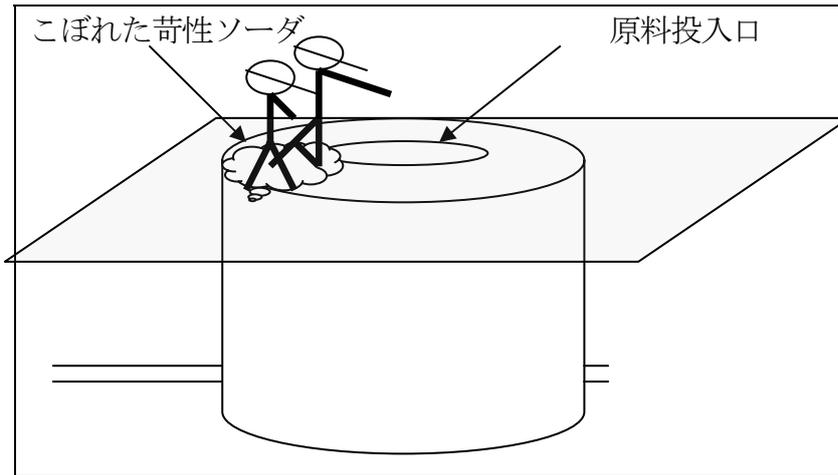
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	2	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	パルプ紙製造業				
災害の種類	有害物による薬傷				
年齢	30代	40代	職種	製紙工	製紙工
傷病名	化学熱傷	化学熱傷	休業見込み	2週間	3週間

図



労働災害発生状況

製紙原料の釜詰め作業中に原料投入口の床が苛性ソーダで濡れていたことに作業員2名が気付かず、膝を着いて作業を行ったため、薬液がズボンにしみ込んで受傷した。

原因

1. 原料投入口の床に有害物の苛性ソーダをこぼしたまま除去せず放置したこと。
2. こぼれた苛性ソーダについて他の作業員の注意を喚起していなかったこと。
3. 作業員が苛性ソーダで作業衣が濡れるおそれがあることに気付かず、不浸透性の作業衣を着用していなかったこと。

対策

1. 原料投入口の床に有害物の苛性ソーダをこぼしたときは、すぐに苛性ソーダを除去し放置しないこと。
2. こぼれた苛性ソーダについて他の作業員の注意を喚起するための注意表示を行うこと。
3. 苛性ソーダで作業衣が濡れるおそれがある場合は、不浸透性の作業衣等を着用させること。

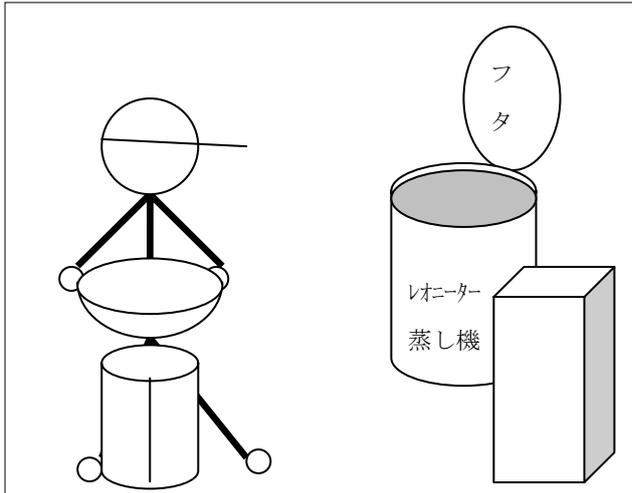
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業種	食料品製造業		
災害の種類	重量物取扱による腰痛症		
年齢	20代	職種	製造工
傷病名	急性腰痛症	休業見込み	1週間

図



労働災害発生状況

40kgの生餡を蒸し器に入れるときに腰を痛めたが、そのまま作業を続けて蒸し器から餡の出し入れを続けていて痛みが強くなり作業ができなくなったもの。

原因

40kgの生餡を蒸し器に入れる重量物取扱作業中に腰を痛めたのに作業を継続したこと。

対策

1. 40kgの生餡の重量物取扱作業を軽減するため、分割して運搬することや助力装置を使用すること。
2. 蒸し器の投入口の高さや形状を工夫し投入作業の労力を軽減すること。
3. 重量物取扱作業を行う労働者に腰痛予防の作業方法や腰痛体操などを教育すること。
4. 作業中に腰の痛みを思えた場合は無理をせず、休憩し、他の軽易な作業に代わること。

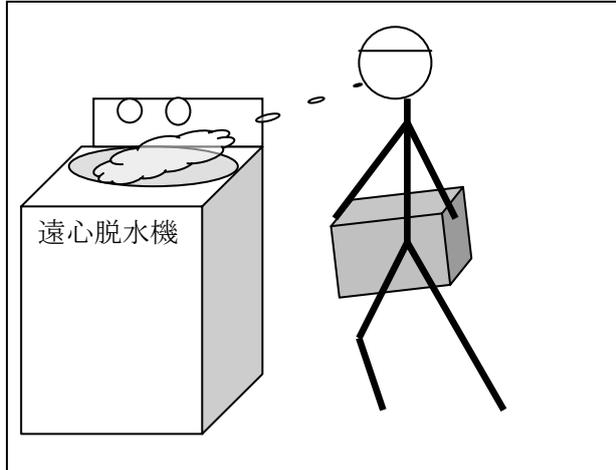
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----

災害事例シート

業種	クリーニング業		
災害の種類	クリーニング薬剤による角膜潰瘍		
年齢	20代	職種	クリーニング工
傷病名	角膜潰瘍	休業見込み	12日

図



労働災害発生状況

工場内で濡れたマットやモップを遠心脱水機に入れようとしたところ、濡れたマットやモップからクリーニング溶剤を含んだ水しぶきが飛んで目に入り、角膜潰瘍になったもの。

原因

1. 遠心脱水機が動いている状態で濡れたマットやモップを遠心脱水機に入れようとしたこと。
2. 遠心脱水機の蓋が開いたままに動いている状態で、脱水機の内容物である濡れたマットやモップからクリーニング溶剤を含んだ水しぶきが飛んだこと。

対策

1. 遠心脱水機の蓋にインターロック装置を取り付けて、遠心脱水機の運転を止めないと、蓋が開かない構造に改善すること。
2. 遠心脱水機の蓋にリミットスイッチを取り付けて、遠心脱水機の蓋を開けると、運転が停止する止まる構造に改善すること。
3. クリーニング溶剤で濡れたマットやモップは一度水洗いして薬剤の濃度を低下させておくこと。

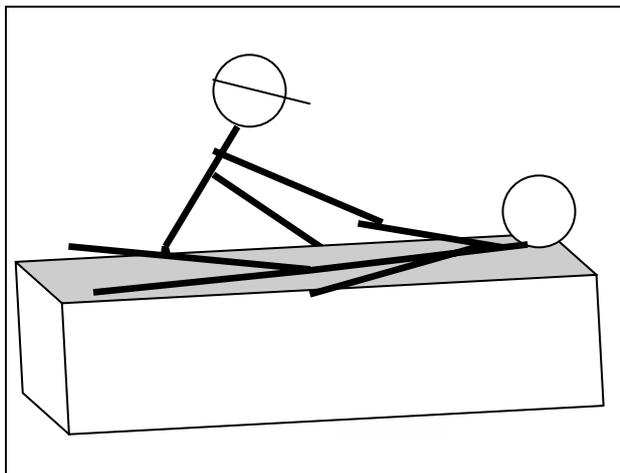
リスクアセスメント

重大性	3	可能性	4	頻度	4	リスクレベル	Ⅲ
-----	---	-----	---	----	---	--------	---

災害事例シート

業 種	介護施設					
災害の種類	ノロウイルスによる感染症					
年 齢	50代	20代	30代	10代	職 種	介護職員
傷 病 名	急性胃腸炎				休業見込み	1週間

図



労働災害発生状況

グループホーム入居者7名がウイルス性腸炎に罹患し入院した際に、下痢、嘔吐の処理を行った職員、病院へ付き添った職員、病院への送迎を行った職員、待機要員として夜間勤務した職員の4名がウイルス性腸炎に罹患した。

原因

感染症の患者が複数出たことで、糞便や吐物からの二次感染からこれを処理する職員及び人から人への感染から施設に滞在した職員が感染しないように対策を講じないままに、労働者に下痢、嘔吐の処理、病院へ付き添い、病院への送迎、待機要員として夜間勤務などを行わせたこと。

対策

1. 患者の糞便や吐物の処理は、使い捨て防護服、マスクと手袋を着用させ、糞便や吐物をペーパータオル等で拭き取り、次亜塩素酸ナトリウムで床を拭き取り、水拭きすること。
2. 糞便や吐物等の汚物はビニール袋に次亜塩素酸ナトリウムを入れて密閉すること。
3. 室内の空気を換気すること。カーテン、リネン・の洗濯、食器類、ドアノブ、日用品などの洗浄を次亜塩素酸ナトリウムで行うこと。

リスクアセスメント

重大性	3	可能性	6	頻度	4	リスクレベル	IV
-----	---	-----	---	----	---	--------	----